



第 1699 回例会

平成 24 年 4 月 9 日 (月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

- 開会点鐘
- ロータリーソング
- 出席報告

会員総数 60 名 出席者数 353 名
前回修正出席率 75%

5. 会長スピーチ

一昨日から 2 日間、恒例の地区大会が堺で開催されました。参加された皆さん、ご苦労様でした。初日は、台湾から高雄北ロータリークラブの呂春栄氏が R I 会長代理として招待を受け、講演されました。インドの R I 会長が出したテーマの詳しい紹介に始まり、広報活動の大切さを訴えました。会員増強活動として、緑化運動即ち平均年齢の若返りと女性会員（現代世界で 15%）の増加を進めたいとのことです。

ポリオについて、現代世界で発生しているのは 4 カ国までになっています（パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリア、インド）。それも、数年後に撲滅可能だらうと予測されているそうです。世界的な大富豪、マイケルソフトのビル・ゲイツが 3 億 5 千万ドルもの大金をポリオ・プラスに寄付した事は有名な話ですが、彼がインドに行き、日本人スタッフが子供たちにポリオワクチンを投与している姿を見て感動したそうです。

続いて地区指導者育成セミナーがあり、講師は元 R I 理事で、岡山の児島 R C の渡辺好政先生（眼科医）で、本当に素晴らしい話を聞かしていただきました。印象に残った内容を一部紹介します。

普通組織というものは、トップにリーダーがいて、中間に役員がおり、下に多くの社員がいる三角形を形成していますが、国際ロータリーは上に 120 万人のロータリアンがいて、一番下に会長がいるという逆三角形

会長 田村 健治 君



を形成するというのがカドマンの説です。

104 年の歴史を持つ R C は常に書き換えられなければなりません。

新入会員に向かっては、「今度はロータリーが、あなたの中に入らせてもらう」と言います。「自分の仕事を犠牲にしてまで、R C のために時間を割き、任務を果たす意義があるのか？」と問われたとき、元 R I 会長はこう答えました。即ち、「人間として成長できるなら意義あり」と。

昨日の 2 日目は、いつもの通りの挨拶の後、地元の高校生によるハンドベル演奏のアトラクション、続いて記念講演がありました。講師は「極道の妻たち」等で有名な作家の家田荘子さん。「自分として生きるために」という演題で、これまでの波乱万丈の半生を語られました。その後、表彰式が行われ、当クラブは米山功労クラブ賞をいただきました。そして、地区大会ゴルフコンペのシニア部門で優勝された谷口誠也さんが、壇上で表彰されました。

6. 幹事報告

○例会臨時変更のお知らせ

海南 RC 4 月 11 日 (水) → 4 月 11 日 (水)

12:30～ 温山荘（花見例会）

那智勝浦 RC 4 月 12 日 (木) → 4 月 12 日 (木)

12:30～ 那智勝浦町下里太田川河口

（ハマボウを植樹した場所の見学）

7. 米山奨学会のカウンセラーの委嘱状



那須 正志君



4 月は
ロータリー雑誌月間

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- | | |
|----------|----------------|
| ①真実かどうか | ②好意と友情を深められるか |
| ③みんなに公平か | ④みんなのためになるかどうか |

事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：田村 健治 幹事：山畠 弥生 S A A : 岩井 克次

8. 会員卓話

○ロータリー財団セミナーの報告

ロータリー財団委員長 阪口 洋一君

本日の話は、1月28日に行われました「財団セミナー」のご報告です。今回のセミナーのメインテーマは、「大きく変わるロータリー財団」と題して、R I 2650 地区（福井、滋賀、京都、奈良）の地区財団委員長でパストガバナーの宮崎茂和さんにお話ししていただきました。2650 地区は新しい財団プログラムの3年間のパイロット地区として選ばれており、実際に新制度での財団プログラムを実施しております。

ロータリー財団は2013～2014年度の「未来の夢計画」の実施に伴い、次年度が申請年度、次々年度が実施年度となります。内容も従来の「ロータリー財団国際親善奨学生」の廃止、「GSE」の廃止に伴い、グローバル補助金と新地区補助金の制度活用に大幅変化いたします。

☆ロータリー財団が夢計画を行わなければならない
理由としては、①現行のままでは、ロータリー財団
の将来はなくなる②マンネリ化して徐々に衰退の
途を歩むことになる③危機感

☆夢計画が必要な理由としては、①急激なプログラムの成長⇒仕分けが必要②15の異なるプログラムの簡素化③「応急処置にとどまるやり方」④成果を持続することが出来ない⑤ロータリーのイメージ・ブランド（公共的イメージ）としての存在感が低い

☆ロータリー財団の背景と改革としては、①急激なプログラムの成長・・仕分け⇒地域とグローバルな奉仕に大別する必要性②15の異なる複雑なプログラム・・簡素化③単年度のプロジェクト・・応急処置にとどまるやり方・・継続性がない④地域でプロジェクトを継続することで・・持続的な大きな成果・・ロータリーのイメージの向上

☆未来の夢計画アンケートの結果（10,000名をアトランダムに選出）としては、

ヨーロッパ進出における ロータリアンの最優先事項

- ・教育と織字率を改善する
 - ・飢餓をなくす
 - ・環境改善（きれいな水）は飢餓と直結している
 - ・疾病の予防と治療

そのためには、財団プログラムの簡素化

- ・国際的な活動と地元の活動のバランスを図る
 - ・大きな成果をもたらし、持続的なプロジェクトに焦点を当てる
 - ・決定権をある程度地元に与える
 - ・ロータリーのイメージの高揚 など

☆未来のプロジェクト

委員会の「五つのテスト」

- ・簡素であるか？
 - ・プロジェクトに対するコスト効果が適切か？

- ・多くのロータリアンが関与しているか？

- ・明らかに成果を期待できるか

- ・ RI 及び財団の使命に沿っているか？

☆地区ロータリー財団の資金・事業の管理

- ①地区財団監査委員会の新設
 - ②地区補助金監査委員会の新設
 - ③地区補助金「セミナー（クラブは参加資格獲得のため出席義務）など

○4月は雑誌月間 ロータリーの友を読みましょう

広報・雑誌・IT委員会 副委員長 吉田 昌生君

4月は雑誌月間ということで卓話に際して「ロータリーの友」を読んでみました。日頃は、何気なしに「読む」というより「眺めている」という感じでしたが、その気になって読んでみると、いくつか興味ある記事が目につきました。

まずは、26ページのロータリーアットワーク、「米山記念奨学生が福娘に」という記事です。マレーシアから和歌山大学に留学中の米山記念奨学生・叶志恩（ヤップ・チーエン）さんが、有田南ロータリークラブ会長で筍島神社の神職をつとめる野田和良氏の紹介で、十日戒の当日、福娘になったというニュースでした。それで、藤白神社でも豊中市在住の次女のところに同じマレーシアからホームステイに来ている留学生イッスカンダル君が4月5日の春祭りを見学に来た時、満開の桜の下で餅投げ台に上り、総代にまじって餅投げをしたところ、たいへん感激したと興奮気味に流暢な日本語で語ってくれました。やはり地元の閑西弁は難しいということでした。

ちなみに、春祭りは祈年祭（トシゴヒノマツリ）といって、神に対して秋に豊作をもたらしてくれるよう に祈る祭りです。4月5日にしているのはちょうどこの時期に境内の桜が満開になるからです。サクラのサ は早苗、早乙女、五月のサで穀靈、クラは磐座、高御 座のように神が依りつく座（クラ）、つまり稻の神靈 が集まり鎮まる座（藤代、岩代などの代、依り代）で あるわけです。

餅投げをするのは、本来、餅はお年玉（稔をもたらしてくれる神靈がこもったもの）、それを神に捧げて豊作を祈り、供えた餅を直会（ナオライ）として頂いて自分たちもパワーをつける、花見の宴が日本独特のものであるのは、こうした風習から来ているものであり、サクラは稻の稔りを占う実用的な植物なのでありました。

次に紀南地区の台風災害支援活動や東日本震災復興基金についての記事が目につきました。義捐金がどこへ届いて何に使われたかわからないケースが多い中でわがロータリークラブの場合、それがはっきりしていることを改めて認識し、現地のロータリアンや被災された方々とも絆ができていることに、これからもこうした支援、友好の歯車をまわしていくかなければならないと思いました。

最後に「水源涵養林の植樹をした」という山形北ロータリークラブの活動です。サントリーが「天然水の森づくり」という事業をやっていますが、そのお手本となったのが、今回被災され復興に向けて新たな歩みを始めている気仙沼の漁師、畠山重篤さんでありました。畠山さんは、「森は海の恋人」を合言葉に漁師の森づくりをしています。

今回の災害を見ても、熊野をはじめ日本の森は危ないところに来ています。それは戦後植えられたスギやヒノキの人工林が間伐等の手入れもされず放置され、大洪水や土砂ダムの原因になっているということです。熊野も元はブナやナラの原生林が多く今とは景観も全く違っています。

企業の多くは水を使っています。「社会貢献から本業へ」というサントリーの提言のように、わたしたちロータリークラブもこうした「森の再生」に目を向けた活動を考えてもよいのではないでしょうか。

9. 閉会点鐘

次回例会

第 1700 回例会 平成 24 年 4 月 16 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

会員卓話 千賀 知起君 重光 孝義君



○会員誕生日

4日 林 孝次郎君 15日 山名 正一君

18日 箕嶋 利一君

○奥様・ご主人誕生日

1日 三木 和栄様 4日 土井 富子様

3日 山田 喜代美様 15日 上田 としあ様

23日 谷脇 真知子様

○結婚記念日

5日 田中 秀夫君 16日 桑添 剛君

10日 中尾 享平君 19日 小久 保好章君

10日 吉川 博之君 23日 山畑 弥生君

13日 中西 秀文君 26日 宇恵 宏純君

29日 横出 廣君

○一般ニコニコ

小椋 孝一君 ロータリー記念ゴルフ大会に入賞しました。

桑添 剛君 地区大会ゴルフで10位に入賞しました。皆様お疲れ様でした。

宇恵 弘純君 地区大会ゴルフで第15位に入りました。

木地 義和君 家族が、家族会でお世話になりました。

荻野 昭裕君 岸さん先日は大変迷惑をかけました。ご免なさい。

吉田 昌生君

長女のところの上の孫が医大、下が高校へと進学しました。今日は卓話をさせて頂きます。



国際ロータリー ニュース

RI 会長がアフガニスタン大統領に ポリオメダルを授与

カルヤン・バネルジーRI会長は4月2日、アフガニスタンの首都カブールにて、世界ポリオ撲滅推進計画におけるアフガニスタン政府の支援を称えるため、ハミド・カルザイ大統領にポリオメダルを授与しました。アフガニスタンを訪れた最初のRI会長となったバネルジー会長ですが、この訪



アフガニスタン政府による世界ポリオ撲滅推進活動への支援を称え、ハミド・カルザイ大統領にメダルを贈与するカルヤン・バネルジーRI会長

問はスティーブン R. ブラウン財団管理委員およびファリー・モイニ氏（いずれも米国カリフォルニア州ラホーヤ・ゴールデン・トライアングル・ロータリークラブ会員）の尽力によって実現しました。同クラブでは、多くの教育的プログラムをアフガニスタンのジャララバードで実施してきた経緯があります。

45分間の会合でカルザイ大統領とバネルジー会長は、インドがポリオ常任国リストから除外されたことやインドにおけるポリオ撲滅活動から得られた知識をアフガニスタンでも生かすことができるという内容について話し合いました。

「アフガニスタンでの予防接種活動を引き続き集中的に行っていただきたいと大統領にお願いしました。確かにまだいつ撲滅が達成できるのかはっきりとした期日を定めることはできませんが、予防接種活動を積極的に継続することによってその日は必ず訪れます」とバネルジー会長は述べます。

○ポリオ撲滅活動への引き続きの支援

カルザイ大統領は、アフガニスタン政府としてポリオ撲滅活動を引き続き支援していくこと、また、アフガニスタン国民に対し、ポリオワクチンを子どもに投与することの重要性を伝えていく決意を話しました。バネルジー会長は、インドでの撲滅活動を支援したイスラム系指導者が、アフガニスタンで同様な立場にいる指導者に働きかけ、活動を後押しできるだろうと述べ、インドにおいてはイスラム聖職者の支援を得て予防接種への理解を広めた経緯に言及しました。それだけでなく、インドとアフガニスタン間で医療チームの交換を行い、ポリオ撲滅を成功に導くための方法や、

アフガニスタンが直面している撲滅活動における課題を学ぶことも可能であると述べました。

アフガニスタンは、野生ポリオウイルスが常在する3カ国のうちの1つです。2012年に報告された世界的なポリオ発症件数は36件ですが、そのうち5件がアフガニスタンで発生しています。2011年には、同国で80件の報告がありました。ウイルス常在3カ国のうち残りの2カ国はナイジェリアとパキスタンですが、アフガニスタンと国境を接しているパキスタンとの間のウイルスの伝播を抑えるには、両国間の協力が不可欠です。パキスタンでのポリオ発症件数は2011年が198件、2012年にはこれまで15件となっています。

○アフガニスタンにおけるロータリーの活動

今回のパネルジー会長のアフガニスタン訪問に同行したのは、上述のブラウン管理委員とモイニ氏、ジャララバード・ロータリー・クラブ会員でアフガニスタンのポリオ・プラス委員長であるアジュマル・パルディス博士、同じくジャララバード・ロータリー・クラブのモハマド・イシャク氏でした。

ブラウン管理委員とモイニ氏は、アフガニスタンでさまざまなプロジェクトを実施してきただけでなく、全国予防接種日にも参加しています。両氏が所属するラホーヤ・ゴールデン・トライアングル・ロータリークラブでは、教育的プログラムとして、アフガニスタンの13の学校でインターネット研修を実施、また、ジャララバードでは研修施設を運営しています。このプログラムは、テクノロジーやカリキュラムの開発、国際協力を大きな目的としています。

ロータリアンがウガンダで エイズ孤児を支援



孤児である
ロゼット・ナムシシさん 17歳

ウガンダでは、120万人以上の子どもたちが、HIVエイズにより両親を無くしています。ロータリー財団と協力団体は、ウガンダでエイズ孤児となった子どもたち500人以上に医療支援を提供し、未来への希望を与えています。

医師であり、カリシゾ・ロータリークラブ（ウガンダ）会員のジョセフ・マトブさんは、「子どもたちは、両親の死を乗り越えて、一生懸命生きようとしています。私たちはそんな彼らに支援を提供しているのです」と話します。

マトブさんの地域のロータリアンによる活動は、ロータリーの重点分野の一つである「疾病予防と治療」分野での活動の一例です。4月7日の世界保健デーを記念して、これらの活動を支えるため、ロータリー財団へご寄付をお願いいたします。

また、クラブや地区が行う地元や海外での活動を支援するため、シェアへご寄付いただけるだけでなく、

疾病予防と治療の重点分野を指定した寄付を行えば、世界中のロータリアンにより実施されている質の高い疾病予防のプロジェクトを支援することができます。いずれのご寄付も、世界の緊要なニーズに応えるために、影響力が高く、持続可能な解決策をもたらすプロジェクトに利用されます。

世界保健デー

2012テーマ「世界における高齢化と健康」

世界保健デーは、世界保健機関（WHO）が設立された1948年4月7日を記念して制定されたものです。毎年、各国の指導者から一般の人々にいたるまで、あらゆる人に参加を呼びかけ、世界的に影響を及ぼしている保健課題の1つに焦点をあてたグローバルなキャンペーンが展開されます。そのテーマは年毎に異なります。

ポリオ撲滅のために

ロータリアンが高峰に挑む



昨年11月、8人のロータリアンが、ポリオ撲滅活動を支援するためにアジア屈指の高峰、キナバル山（ボルネオ島）に登りました。メンバーは、1名を除いてみな第3310地区（ブルネイ、シンガポール、マレーシア）のロータリアンです。その中の一人、ジョホール・バル・ロータリー・クラブ（マレーシア）会員のチー・ウー・レオンさんは、「ポリオ撲滅のために、みんながあつと驚くようなことがしたかった」と話します。山頂を目指し、ボルネオ島の山岳地帯を300km以上歩きました。「まさに人里から離れた未開の土地だった」と話すレオンさんは、山で迎える夜明けがいつも美しく、朝霧の風景は神秘的ですらあったと振り返ります。チームの挑戦は、コタキナバル市で開催されたロータリー第3310地区大会で有終の美を飾りました。アスリートではない「普通のロータリアン」が、何ヵ月も前からトレーニングに励み、「普通じゃないことを成し遂げた」とレオンさんは話します。「今回の挑戦は、生涯忘れられない思い出となるでしょう」

地元メディアもこの偉業を取り上げ、ロータリーの撲滅チャレンジを後押しする大きな広報・募金推進活動となりました。「（ゴール地点まで）12日間もかかりました」とレオンさん。「でも、ポリオを撲滅するロータリーの挑戦に比べれば、なんてことないですね」